

Zoom を利用した保育現場からのオンライン保育の試み —2020年のコロナ禍における実践の保護者・保育者への調査—

中村俊哉¹⁾ 前田美知代²⁾

1) こども健康学科 2) 浜松海の星幼稚園

A Trial of Online Childcare from Childcare Sites Using Zoom -Survey of Parents and Early Childhood Educators in the Corona Disaster of 2020-

Toshiya NAKAMURA, Michiyo MAEDA

要 旨

2019年新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) が発生して以来、緊急事態宣言が何度か発令された。2020年の第1回目の緊急事態宣言中の段階では、どのようなウイルスかわからず、休園にする園が多かった。そのような中、浜松海の星幼稚園では、緊急事態宣言が終了する時期にオンライン保育を行い、その効果を調査した。オンライン保育は、4日間行い、約80%の家庭が参加した。オンライン保育の内容としては、クイズ、お話、聖歌、ゲームなどを行った。保護者、保育者ともオンライン保育の有用性を感じ、園が設定したねらいも達成されていると考えていることが明らかになった。そして、生配信のメリットとしての保育者や園児同士の顔がわかったり、やりとりをしたりしていく中で、安心感や緊急事態後の登園を楽しみにする効果もあることが明らかになった。

キーワード：オンライン保育、遠隔保育、配信保育、遠隔教育

Abstract

Since the outbreak of the new coronavirus infection (COVID-19) in 2019, emergency declarations have been issued several times; during the first emergency declaration in 2020, many preschools were closed because they did not know what kind of virus the coronavirus infection was. Under such circumstances, Hamamatsu Umi no Hoshi Kindergarten conducted online childcare during the period when the state of emergency was declared to be over, and investigated its effectiveness. The online childcare lasted four days and was attended by about 80% of families. The content of the online childcare included quizzes, stories, chants, and games. It became clear that both parents and early childhood educators felt that the online childcare was useful and that the aims set by the kindergarten were being achieved. It also became clear that the benefits of live streaming, such as seeing the faces of the caregivers and children, and interacting with them, gave them a sense of security and made them look forward to coming to school after an emergency.

Keywords : online childcare, remote childcare, delivered childcare, distance education

1. はじめに

2019年12月に新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が発生した。このCOVID-19は、世界中に広がり、2021年9月2日17時30時点で日本のCOVID-19感染者は、15115087人となり、死亡者は、16152人となっている。（毎日新聞）。

日本では、2020年4月初旬に緊急事態宣言の検討を始め、4月7日に第1回目の緊急事態宣言が出され、4月8日から緊急事態宣言にともなう外出自粛要請が発令された。5月4日には、緊急事態宣言の延長が決定され、5月25日に、全国の緊急事態宣言の解除が決定された。2021年8月段階においては、第5波と言われている中にあり、これからもCOVID-19と付き合っていかなければならない。

2020年5月の緊急事態宣言では、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）についてわからないことも多く、幼稚園でも休園するところが多かった。今回調査対象とした浜松海の星幼稚園も緊急事態宣言中の4月21日～5月22日まで休園していたが、緊急事態宣言の解除が近づいた2020年5月13日、14日、15日、20日にZoomを利用したオンライン保育を行った。（その他の日は、午前中に分散登園を行った。）

オンラインの教育利用の先行研究については、大学教育を中心に行われている。ディベート⁽¹⁾や幼児と関わる様子を遠隔地で評価する⁽²⁾、福祉施設の状況を伝える⁽³⁾など、様々な実践が行われており、その有用性が報告されている。しかし、保育現場でのオンライン保育についての先行研究は見つからなかった。

そこで、本研究は、コロナ禍という特殊の期間の中であるが、幼児教育におけるオンライン保育の可能性と課題を明らかにするため、幼児教育の中で行われたオンライン保育後に保護者と保育者を対象にアンケートを行い、オンライン保育のついでの可能性や課題を検討する。

2. 研究の方法

オンラインアンケート調査を保育者と保護者に行う。

- アンケート調査日

2020年7月28日～8月8日

- 調査方法

園からの連絡は、インターネットを使って行っている。その一つの機能としてのアンケート機能を使用し行なった。

- 回答率 保護者 99/135人（73.3%）


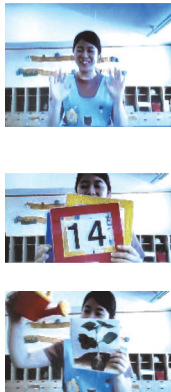


保育者 8/8人（100.0%）




3. 浜松海の星幼稚園のオンライン保育の概要

浜松海の星幼稚園は浜松市の文教地区にあり、キリスト教を母体とする3年保育の幼稚園である。

オンライン保育のねらいとして「子どもたちの生活リズムを整える」、「楽しみの時間をもつ」と設定し、Zoomを利用したオンライン保育を行った。オンライン保育の時間は、各年齢2クラスあるため、クラスごとに時間を分けて2回行った。開始時間を年少は、10時からと10時30分。年中は、9時からと9時30分。年長は、9時30分からと10時30分と設定した。オンライン保育を行う時間は約10分程度とした。形態は、二人の幼稚園教諭が関わり、パソコンを2台（実施用と映り方チェック用）使用した。一人が画面に映り、一人がサポートを行った。オンライン保育の内容として、年少は、クイズ、お話など行い、年中は、祈り、聖歌、クイズ、お話、ゲーム（先生と同じ色の物を家の中で探そう）など行い、年長は、祈り、個々に名前を呼ぶ、クイズ、手品、お話をを行った。表は、2020年の年中向けのオンライン保育の記録を表に表したものである。

表 2020年5月14日、年中児のオンライン保育の様子

時間	画面	画面の様子・保育者の発話
0:00		おはようございます
0:48		<p><保育者の挨拶> おはようございます。先生の声聞こえますか。聞こえたら手を振ってください。聞こえてるね。良かった。良かった。ビデオをオンにしてください。お時間になったのではじめます。光B組のお友達、おはようございます。</p> <p>今日は、5月14日木曜日です。今日朝、幼稚園来たら、きゅうりに水をあげました。みんなはどうか。朝の歯磨きはしましたか。朝ごはん食べましたか。お熱はないかな。元気いっぱいそうだね。よかった。</p>
2:00		<p><聖歌> はじめに、5月の聖歌を歌います。5月の聖歌は「まりあさま」です。手を合わせてください。できたかな。心を落ち着かせて、歌います。ピアノの音が聞こえたら、一緒に歌ってください。（聖歌を歌う）（所々で子どもの姿も写る。）</p>
3:21		<p><祈り> お祈りをします。手を合わせてください。（祈りの言葉）（所々で子どもの姿も写る）上手にできました。</p>

4:38		<p><クイズ> 今日のお楽しみです。 今日のお楽しみは、シルエットクイズです。(拍手) じゃあ、早速行くよ。 第1問。さぁこれはなんでしょう。わかったかな。わかるかな。ひらひらひら〜、ひらひらひら〜、ヒントは、お花の近くにいる虫さんです。 正解は、チョウチョでした。 (同じように、ひまわり、イルカ、ライオン、スイカ、ロケットと、計6問クイズを出す。) (所々で子どもの姿も写る) 楽しかったお友達、よかった楽しんでくれて。</p>
9:37		<p>今日はこれでおしまいです。明日は、楽しい楽しいパネルシアターをします。なんのお話かは、またあしたのお楽しみです。楽しみにしていてください。</p>
9:52 10:10		<p>じゃあね。またねー ビデオを切ってください。</p>

4. オンライン保育についてのアンケート結果

(1) 保護者を対象とした調査結果

保護者全員を対象にオンライン保育の参加の調査をし、不参加者と参加者に分け、調査を行った。参加者には、それぞれの項目を4段階（とても良かった、良かった、やや良くなかった、良くなかった等）で調査した。また、自由記述の欄も設け、記載された内容から分析を行った。

図1は、オンライン保育に参加の有無の調査結果をグラフにしたものである。はい79.8%（79名）、いいえ20.2%（20名）であった。多くの保護者が参加していた。

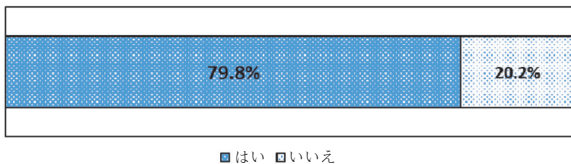


図1 「オンライン保育に参加」について調査した結果の割合

図2は、参加していない保護者に理由についての調査結果をグラフにしたものである。自由記述から、分類した。用事があり参加できなかった60.0%（12名）、環境が整わなかった20.0%（4名）、その他20.0%（4名）であった。第1回目の緊急事態宣言の中であり、オンライン保育を始めるための機器やソフトなどの環境が整わなかったことや使い方について慣れてなかったなどの理由が挙げられた。

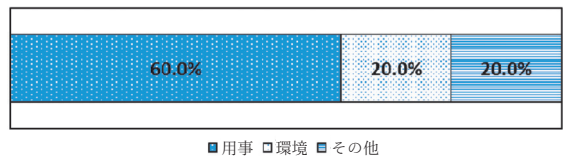


図2 「不参加理由」について調査した結果の割合

図3は、オンライン保育に参加してよかったと考えているかについての調査結果をグラフにしたものである。とても良かった44.3%（35名）、良かった53.2%（42名）、やや良くなかった2.5%（2名）、良くなかった0.0%（0名）であった。多くの保護者が良かったと考えていることがわかった。

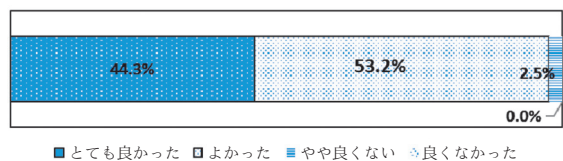


図3 「オンライン保育に参加の評価」について調査した結果の割合

図4は、4回行ったオンライン保育のうち、参加した保護者の参加回数についての調査結果をグラフにしたものである。1回6.3%（5名）、2回12.7%（10名）、3回21.5%（17名）、4回59.5%（47名）であった。全ての回数を参加した保護者は、約6割であり、図2の参加理由が用事や環境が整わなかったからという理由からも前向きに参加しているように捉えられる。

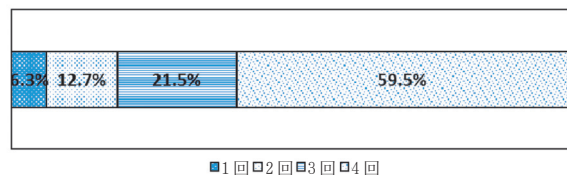


図4 「オンライン保育に参加の回数」について調査した結果の割合

図5は、オンライン保育としてのねらいの1つ「子どもたちの生活リズムを整える」が保護者に伝わったかについての調査結果をグラフにしたものである。よく伝わった35.4%（28名）、伝わった39.2%（31名）、やや伝わった17.7%（14名）、伝わらなかった7.6%（6名）であった。多くの保護者が幼稚園のねらいを理解していたが、伝わっていない保護者も少数いたことがわかる。

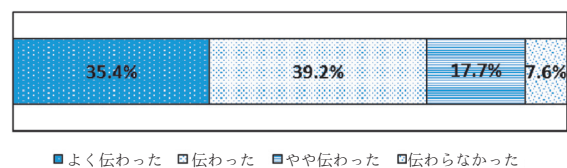


図5 「子どもたちの生活リズムを整える」というねらいの理解について調査した結果の割合

図6は、オンライン保育としてのねらいの1つ「楽しみの時間をもつ」が保護者に伝わったかについての調査結果をグラフにしたものである。よく伝わった51.9% (41名)、伝わった39.2% (31名)、やや伝わった7.6% (6名)、伝わらなかった1.3% (1名)であった。半数以上が良く伝わったと回答し、90.9%の保護者が良く伝わった、伝わったと回答した。図5の「子どもたちの生活リズムを整える」よりも視覚的に子どもの様子がわかりやすいことも数値が良かった理由と考えられる。

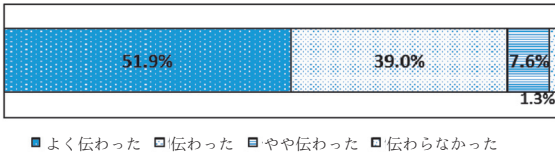


図6 「楽しみの時間をもつ」というねらいの理解についての調査結果の割合

図7は、コロナ禍の休園中の対応としてのオンライン保育の是非についての調査結果をグラフにしたものである。とても良かった57.0% (45名)、良かった39.2% (31名)、やや良くなかった3.8% (3名)、良くなかった0.0% (0名)であった。とても良かった、良かったを足すと96.2%であり、多くの保護者が良いと評価している。

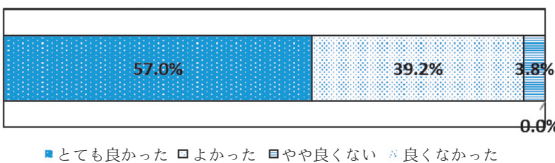


図7 「オンライン保育に参加の是非」についての調査結果の割合

図8は、オンライン保育の内容評価についての調査結果をグラフにしたものである。とても良かった39.2% (31名)、良かった55.7% (44名)、やや良くなかった5.1% (4名)、良くなかった0.0% (0名)であった。とても良かった、良かったを足すと94.9%であった。保育内容についても評価されていた。

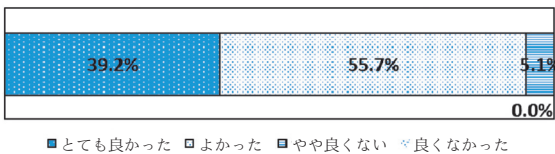


図8 「オンライン保育の内容の評価」についての調査結果の割合

図9は、オンラインの保育で行った内容が子どもに伝わっていたかを保護者がどのように捉えたかについての調査結果をグラフにしたものである。よく伝わった39.2% (31名)、伝わっていた44.3% (35名)、やや伝わっていない16.5% (13名)、伝わっていない0.0% (0名)

であった。よく伝わったと伝わっていたを足すと83.5%であった。概ね保育の内容が伝わっていたと保護者は見ていたことがわかった。

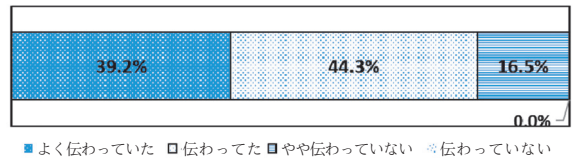


図9 オンライン保育の内容が子どもに伝わっていたか保護者が評価した調査結果の割合

図10は、オンライン保育の内容に子どもは興味をもっていたかを保護者が評価したかについての調査結果をグラフにしたものである。とてももった39.2% (31名)、もった55.7% (44名)、あまりもたなかった5.1% (4名)、もたなかった0.0% (0名)であった。とてももった、もったを足すと93.6%であった。保護者から見るとほとんどの子どもが興味をもって取り組めたようである。

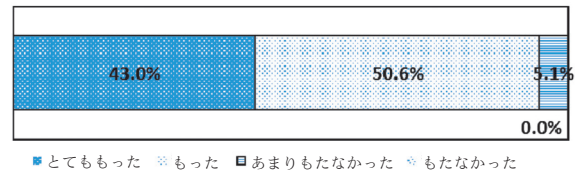


図10 オンライン保育の内容に子どもが興味をもっていたか保護者に聞いた結果の割合

図11は、オンライン保育の時間の長さについての調査結果をグラフにしたものである。オンライン保育の時間は、10分間ほど行った。とても良かった12.9% (10名)、良かった48.1% (38名)、やや良くなかった34.2% (27名)、良くなかった3.8% (1名)であった。とても良かったと良かったを足すと61%が良いであり、やや良くない、良くなかったを足すと39%が良くないとなった。時間に関しては良かったと回答した保護者が多いものの改善が必要であるとする保護者も一定数いることがわかった。

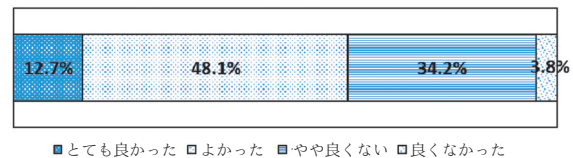


図11 オンライン保育を行った長さについての調査結果の割合

図12は、オンライン保育の開始時間について調査した結果をグラフにしたものである。とても良かった26.6% (21名)、良かった63.3% (50名)、やや良くなかった10.1% (8名)、良くなかった0.0% (0名)であった。多くの保護者がほぼ良かったと考えていた。

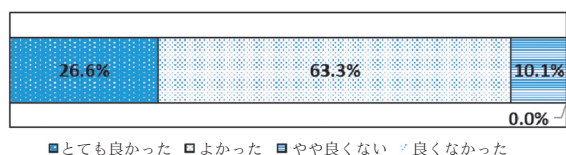


図 12 オンライン保育の開始時間についての調査結果の割合

図 13 は、オンライン保育を行った日程についての調査結果をグラフにしたものである。オンライン保育は、分散保育の日を避け、分散保育以外の毎日行った。とても良かった 34.2% (27 名)、良かった 60.8% (48 名)、やや良くない 3.8% (3 名)、良くなかった 1.3% (1 名) であった。良かったが 60.8% と最も多かったものの、とても良かった、良かったを足すと 96.0% の保護者が良かったと考えると分散保育の休みとなる日にオンライン保育は必要にされていたと考えられる。

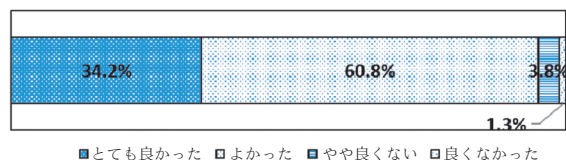


図 13 オンライン保育を行った日程についての調査結果の割合

選択肢を用いたアンケートの他に自由記述のアンケートを実施した。自由記述のため、複数回答となる。

「オンライン保育の効果」についての自由記述では、先生の顔が見ることができて安心、嬉しい 27.8% (22 人)、友達の顔が見ることができて嬉しい、繋がりをを感じる 21.5% (17 人)、楽しい 17.7% (14 人)、生活リズムが整う、メリハリがつく 16.5% (13 人) であった。

「自粛中の子どもにとっての 1 番のストレスはお友達と会えないことで孤立を感じることであった。お友達も自粛していると親が説明しても、本当は幼稚園は開いているんじゃないか、自分だけが休んでいるんじゃないか、と不安な様子でした。オンライン保育によって、先生やお友達の顔を見て非常に安心したようで、オンライン保育の後は表情も明るくなり、保育後の家での時間も楽しく過ごすことができました。また、保護者としても幼稚園と繋がっているという安心感がありました。」など、コロナ禍の自粛は不安を与えていたようで、オンライン保育は、インターネットを利用しての生配信であったが、デジタル動画として保育者や友達と間接的に会えるだけでも大きな安心感をあたえているようであった。特に幼稚園に入園したての年少組の保護者からは、「年少なので、幼稚園に慣れるという意味でもやっていただけで助かったです。」や、休園時間が多くなることでの「自粛解除後の社会生活、集団生活に戻れるか不安が軽減されました。」という内容の記述が多くみられた。こ

のオンライン保育のおかげで、スムーズに日常の登園ができたという記述も見られた。また、外出もできなく、幼稚園も行けず自宅で変化のない生活のため、生活にメリハリができ、規則正しい生活を促す効果もあったようだ。

「今度のオンライン保育を行うときの望む内容」としては、歌 15.2% (12 人)、踊り (ダンス) 15.2% (12 人)、先生との交流 12.7% (10 人) であった。普段の幼児教育で行っている活動の記述が多かった。また、「今回は先生のお話を聞いている感じだったので、先生と対話が出来るともっと楽しいと思います。例えば、お名前を呼んでくれた時にその子のマイクをオンにして画面もそのお友達の顔にするなど… (後略)」、「歌を歌う、体を動かすみたいに参加型があったらいいなと思いました。」など、さらなる双方性や参加型のオンライン保育を望む声が多かった。浜松海の星幼稚園は、オンライン保育が初めてだったこともあり、オンライン保育の音声の混乱をさけるために幼児側の音声はオフとして行った。また、実際にタイムラグや家庭側の住宅環境を考えた場合、全ての家庭が参加型のオンライン保育ができる環境にない。このことを考えると園側の検討も必要かもしれないが、オンライン保育の在り方の理解を家庭に求めることも必要になってくるかもしれない。

「オンライン保育のメリット」として、生活リズムを整えることができた、メリハリとなった 27.8% (22 人)、友達や先生と繋がりをもてた 21.5% (17 人)、楽しむことができた 11.4% (9 人) であった。「オンライン保育の効果」の自由記述と同様に、「休園中、なかなかしなかった朝の支度を、オンラインの日は自分で時計を確認しながら間に合うようにすることができていて、それに伴い、朝も早く起きて、夜も眠る事ができるようになっていきました。」「休園になって不安そうでしたが、大好きな先生の笑顔と声が確認できた事で、安心した様子でした。」「先生の顔が見られて物語が聞けたことが一番楽しかったようです。」などの記述も多くみられたが、「休みの間でも子どもが幼稚園を意識して楽しく過ごせた。」「幼稚園に行けなくても幼稚園の雰囲気を感じられる。」「幼稚園の先生 生徒を忘れなく自分も一員である事を認識していました。」など、オンライン保育が幼稚園との繋がりを保つ効果があると考えている保護者が多いことが分かった。さらに、「楽しそうに歌ったり手遊びしている姿を見ることができた。」「幼稚園でどんなことをしているのか様子を親と一緒に見られたことがよかった。」など、保護者が子どもや生配信からわかる保護者視線のメリットも記述されていたことが特徴的であった。

「オンライン保育のデメリット」としては、時間を長くしてほしい 22.8% (18 人)、子どもの声を発信できたら 6.3% (5 人)、操作が慣れていなくて大変だった 5.1% (4 人) であった。図 11 の選択肢での調査結果の約 4 割がやや良くない、良くないの回答の理由は、時間を長くしてほしいという考えであることがわかる。具体的記述

をみると「良くなかった訳ではないですが、時間がもう少し長くてもよかったです。」とあった。このような記述は特に年長児の保護者が多かった。幼稚園側は、幼児の集中力と集中力の個人差も考え、10分程度としたものであったが、特に集中力がある子どもの保護者にとっては、物足りない感があったと考えられる。

他のデメリットとして挙げられた項目についても音声の混乱を避けるための工夫であった。また、コロナ禍の1波での取り組みであり、生配信するソフトの普及もこの当時は多く使われていなかった。そのため、機器やソフトの操作の不慣れもデメリットとして挙げてきたと考えられる。

「生配信のメリット・デメリット/電話（声のみ）と動画配信（YOUTUBEなどいつでも見られるが双方向性がない）との比較」のメリットとして記述されたのは、双方向、共有できる27.8%（22人）、反応をみることができ25.3%（20人）、実感できる7.6%（6人）であった。浜松海の星幼稚園のオンライン保育として、音声は保育者の一方通行で、保育者が名前を呼び、子ども達が動きなどで返事をするというものであったが、それでもメリットとして挙げられている。デジタルとしての間接的なパーソナルコンピューターやスマートフォンからの動画であっても、双方向、共有、実感などの単語が出てきた。これは、「オンライン保育の効果」でも記述されていたように、コロナ過で子ども達が幼稚園との繋がりが分断されることよっての不安があり、オンライン保育が、保育者と幼児の繋がりを可能にしたことによるためであろう。具体的記述としては、「先生が子ども達の反応を見ながらコメントを出すことができる。」「コミュニケーションがとりやすい点が生配信のいい所だと思います。」「やはり顔が見られることが大事。双方向性がないのは意味

がないので、行っていくのであれば生配信がいいと思う。」など、オンライン保育のメリットがコミュニケーションであると感じられている記述も複数あるほか、「LIVEはやっぱり現実味と温度が感じられます。」という記述や生配信による「特別感」、「一体感」を挙げる保護者もいた。また、「電話では顔が見えないので、子どもは誰と話しているのか分からないし、なかなか会話が続かないと思う」など他の機器によるデメリットの記述もあった。

「生配信のデメリット」として、時間を逃すと見ることができない13.9%（11人）、環境（パソコンの台数、オンライン教育と重なる等）が整えない3.8%（3人）、パソコンの調子が良くないときがある2.5%（2人）であった。メリットで挙げられた同じ時間を共有するという項目が、デメリットしても挙げられていることが特徴的であろう。「用事ができてしまったり、通信の調子で見れなかったりする。」「時間を逃すと見れない、ある程度見る環境を整える必要がある。」「パソコンがない為、携帯に繋げてのオンラインは連絡手段がなくなってしまい困る。」というような記述が代表として挙げられる。その他、「親がうっかりしてしまったり本人の調子で準備に時間がかかると参加できない。兄弟がいると兄弟も参加したがって（画面に映りたがり）ちょっと母が面倒」、「今後小学生の兄弟も休校でオンライン授業となった場合、端末が人数分あるわけではないので指定の時間に参加できない可能性もありうる。」など、兄弟姉妹がいる場合によるデメリットを挙げる保護者も複数いた。

(2) 保育者を対象とした調査結果

オンライン保育を行った保育者にも選択肢のアンケートを行った。浜松海の星幼稚園の常勤の保育者8名に調査を行った。

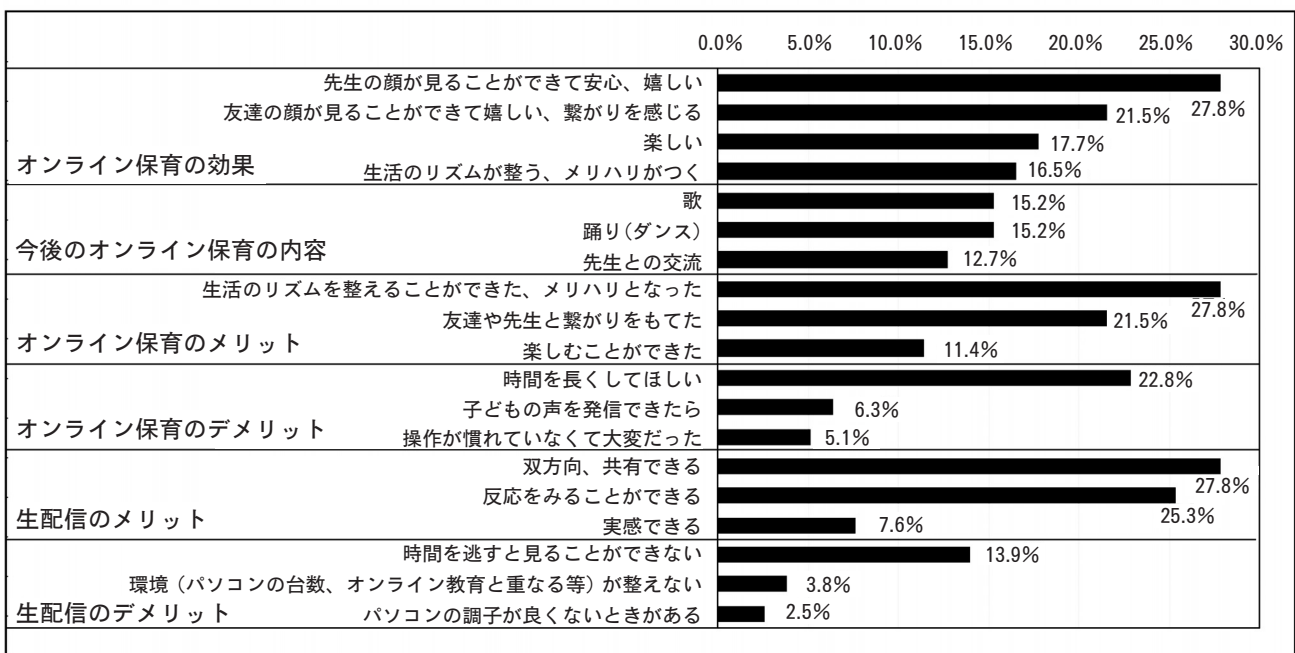


図 14 は、休園中の対応としてオンライン保育を行った是非を調査したものである。とても良かった 25.0% (2 名)、良かった 75.0% (6 名)、やや良くなかった 0.0% (0 名)、良くなかった 0.0% (0 名) であった。全員が良かったと回答した。この結果は、オンライン保育が初めてだったため、準備が大変だったり、経験値がなかったりすることによる保育者のオンライン保育に対する満足度などが影響していると考えられる。

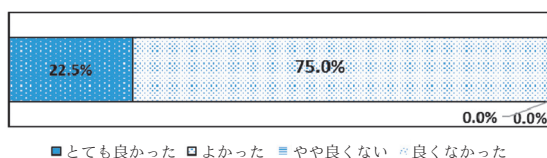


図 14 オンライン保育の是非についての調査割合

図 15 は、オンライン保育としてのねらい「子どもたちの生活リズムを整える」が達成できたかについての調査した結果である。達成できた 0.0% (0 名)、やや達成できた 87.5% (7 名)、やや達成できなかった 12.5% (1 名)、達成できなかった 0.0% (0 名) であった。達成できたは、0.0%であったが、1 名以外はやや達成できたであった。

この結果は、少数であるが起きられなかった子どもがいたという保護者の声が保育者に伝わったことも理由の 1 つとして考えられる。

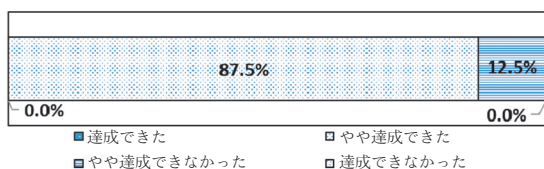


図 15 「子どもたちの生活リズムを整える」というねらい達成についての割合

図 16 は、オンライン保育としてのねらい「楽しみの時間をもつ」が達成できたかについての調査した結果である。達成できた 37.5% (3 名)、やや達成できた 62.5% (5 名)、やや達成できなかった 0.0% (0 名)、達成できなかった 0.0% (0 名) であった。オンライン保育の内容が保育者自身も子ども達の反応から、感じ取ったと考えられる。全ての子ども達が、パーソナルコンピューターやスマートフォンなどの前で集中できない姿があったことも影響していると考えられる。

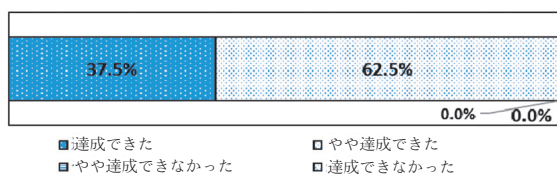


図 16 「楽しみの時間をもつ」というねらいの達成についての割合

図 17 は、オンライン保育を行って子どもの反応について保育者がどのように見取ったか、調査した結果である。とても良かった 75.0% (6 名)、良かった 25.0% (2 名)、やや良くなかった 0.0% (0 名)、良くなかった 0.0% (0 名) であった。とても良かった、良かったを足すと全員が良かったと回答しただけでなく、とても良かっただけでも 3/4 を占めている。保育者は、オンライン保育を行って考えた以上に子どもの反応が良かったのかもしれない。しかし、図 16 の「楽しみの時間をもつ」との差が生まれる。今回は、初めてのオンライン保育であったため、保育者は、さらなる工夫の余地を感じているため、ねらいの達成度は低かったのかもしれない。

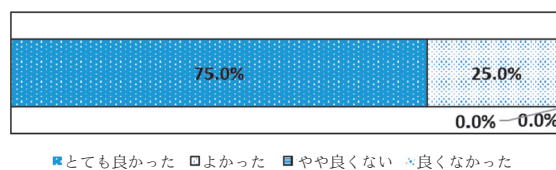


図 17 子どもの反応の評価についての割合

図 18 は、オンライン保育で行った内容が適切だった調査した結果である。とても良かった 50.0% (4 名)、良かった 50.0% (4 名)、やや良くなかった 0.0% (0 名)、良くなかった 0.0% (0 名) であった。この調査も、とても良かった、良かったを足すと全員であった。

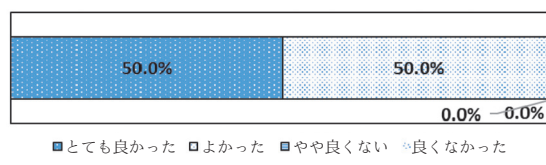


図 18 オンライン保育の内容の評価についての割合

図 19 は、オンライン保育の回数についての調査結果である。

とても良かった 12.5% (1 名)、良かった 87.5% (7 名)、やや良くなかった 0.0% (0 名)、良くなかった 0.0% (0 名) であった。この調査も、とても良かった、良かったを足すと全員であったが、とても良かったは、1 名であったことから、概ね良かったと考えているのであろう。

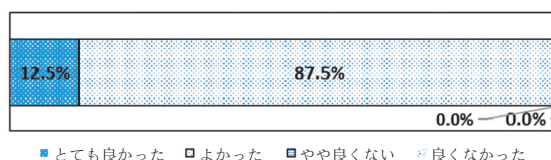


図 19 オンライン保育の回数の評価についての割合

図 20 は、今後休園になった場合、オンライン保育を行ったほうがいいのか調査した結果である。とても良かった 12.5% (1 名)、良かった 87.5% (7 名)、やや良くなかった 0.0% (0 名)、良くなかった 0.0% (0 名) であった。この調査も、とても良かった、良かったを足すと全員で

あった。

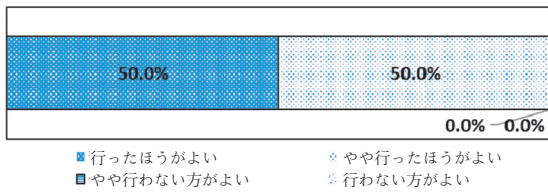


図 20 今後のオンライン保育についての調査の割合

5. まとめ

(1) 保護者アンケート結果からの考察

最初の緊急事態宣言中の急な取り組みにも関わらず、参加者が 79.8% (79 人) と、大きな関心があることが伺えた。オンライン保育に参加して良かったという回答が全体の 97.5% (77 人) となった。また、「子どもたちの生活リズムを整える」、「楽しみの時間を持つ」という 2 つのねらいに対してもそれぞれ全体の約 74.6% (59 人) と 91.1% (72 人) の保護者が十分に達成されたと考えていることがわかり、保護者にも意図が伝わったと考えられる。なにより、保育者と子ども、または子ども同士の顔がわかり、間接的であったとしてもコミュニケーションをはかることで、繋がりを感じ、不安が軽減し、園に登園する心の準備にもなると保護者は感じていた。さらに、園での子どもの様子がわかるという声も挙げられていた。このようにオンライン保育は、生活リズムを整える、コロナ過でも楽しむの他に、複数のメリットがあることが示唆された。また、保護者から見た子どもたちの様子も、オンライン保育の内容も適切であり、内容は子どもたちに伝わっている 83.5% (66 人)、興味を示していたという回答が 93.6% (74 人) と、オンライン保育を保護者の方も子どもたちも楽しんだ様子が伺える。しかし、オンライン保育の時間について、保育者が発達段階を踏まえて 10 分程度としたが、集中力がある子どもをもつ保護者からは、もう少し長くてよいという声もあった。今後の課題として、パーソナルコンピューターなどの機器に対して環境が整わない、操作が上手くできないなどの声や、兄弟がいて機器の台数や同時にオンラインになると困るなど、オンライン保育の内容よりも、機器などのハード面が挙げられた。

(2) 保育者アンケート結果からの考察

オンライン保育をして良かったという保育者が 100% (8 人) で、2 つのねらいもほぼ達成され、内容も適切であったという結果であった。初めての試みであったが、保育者同士が協力し、刺激し合い、年齢にあった内容の選定をし、自主的に質を高めようと練習する姿が見られた。保育者同士の良い関係作りにも繋がったと考える。

6. おわりに

今回のオンライン保育は、緊急事態宣言という特殊な状況の中で行われた緊急措置的な取り組みである。

生配信とはいえ、画面だけで本来の目指す保育が行うことはできないことは分かっていたが、2020 年 5 月に緊急事態宣言が延長され、保護者から「朝起きれなくて…」 「ゲームばかりしていて…」などの言葉が聞かれるようになり、家庭と子どもたちのために出来ることとして、Zoom を利用したオンライン保育を考え行なったものであった。

保護者、保育者ともオンライン保育の有用性を感じ、園が設定したねらいを達成されていると考えている。なにより、オンラインという生配信の特性により、保育者や園児同士の顔がわかったり、やりとりができたりすることで、保育者や園と子ども達が繋がりを感じ、安心感や緊急事態後の登園がスムーズになるという効果も挙げられた。今後は平時のオンライン保育の在り方も検討することも必要であろう。

幼稚園側としては、オンライン保育をしながら、子どもたちの一人ひとりの笑顔が、緊急時の中で保育者の子どもたちに対する安心にも繋がり、励みにもなった。

参考文献

- (1) 谷田貝雅典、坂井滋和、永岡慶三、安田孝美「視線一致型および従来型テレビ会議システムを利用した遠隔授業と対面授業によるディベート学習の教育効果測定」教育システム情報学会誌 Vol.28, No2 pp 129-140、2011
- (2) 今北英高、小野志操、麦田盛穂、眞藤英恵「ICT を活用した遠隔授業の教育効果と課題」第 44 回日本理学療法学会大会 抄録集、pp135-140、2008
- (3) 番匠一雅「TV 会議システムを利用した福祉現場からの遠隔授業の試み」田園調布学園大学紀要 第 2 号 pp181-194、2007

参考資料

<保護者へのアンケート内容>

オンライン保育に参加しましたか

はい いいえ

上記の質問で「はい」の方のみお答えください。参加されなかった理由をお書きください

これからは「はい」の方のみお答えください。

オンライン保育に参加してよかったですか

とても良かった 良かった やや良くない 良くなかった

オンライン保育全8回のうち何回参加しましたか？

1 2 3 4

オンライン保育としてのねらい「子どもたちの生活リズムを整える」がオンライン保育の中で伝わりましたか

よく伝わっていた 伝わっていた やや伝わった 伝わらなかった

オンライン保育としてのねらい「楽しみの時間をもつ」がオンライン保育の中で伝わりましたか

よく伝わっていた 伝わっていた やや伝わった 伝わらなかった

休園中の対応としてオンライン保育をおこなって良かったですか

とても良かった 良かった やや良くない 良くなかった

全体として内容は適切でしたか

とても良かった 良かった やや良くない 良くなかった

オンライン保育で行っていることは子どもに伝わっていましたか

よく伝わっていた 伝わった やや伝わっていない 伝わらなかった

オンライン保育者の内容に子どもは興味をもっていましたか

とてももった もった あまりもたなかった もたなかった

オンライン保育の時間（10分ほど）はいかがでしたか

とても良かった 良かった やや良くない 良くなかった

オンライン保育の開始時間はいかがでしたか

とても良かった 良かった やや良くない 良くなかった

オンライン保育は、分散保育の日以外毎日行いました。この回数についてはいかがでしたか

とても良かった 良かった やや良くない 良くなかった

<自由記述欄>

オンライン保育はどんな効果があったと思いますか

今後オンライン保育の内容として行ってほしいものがあればお書きください

今後オンライン保育の内容として行ってほしいものがあればお書きください

オンライン保育を行ってよかったと思うところを上げてください

オンライン保育を行ってよくなったところを上げてください。

今後どのような内容を行ってほしいですか

今後どのような時間に行ってほしいですか

今回のオンライン保育は生配信で行いました。電話（声のみ）と動画配信（YOUTUBE などいつでもみれるが双方向性ない）と比較してのメリットとデメリットはどのようなものだと思いますか

休園中、オンライン保育の他に、園に臨むことがありますか

<保育者へのアンケート内容>

休園中の対応としてオンライン保育をおこなって良かったですか

とても良かった 良かった やや良くない 良くなかった

オンライン保育としてのねらい「子どもたちの生活リズムを整える」が達成できたと考えますか

とても達成できた 達成できた やや達成できなかった 達成できなかった

オンライン保育としてのねらい「楽しみの時間をもつ」が達成できたと考えますか

とても達成できた 達成できた やや達成できなかった 達成できなかった

オンライン保育を行って、子どもの反応はどうだったと思いますか

とても良かった 良かった やや良くない 良くなかった

オンライン保育を行って、内容は適切だったと思いますか

とても適切だった 適切だった やや適切でなかった 適切でなかった

オンライン保育は、分散保育の日以外毎日行いました。この回数についてはいかがでしたか

とても良かった 良かった やや良くない 良くなかった

今後休園中になった場合オンライン保育を行った方がいいと思いますか

行った方がよい やや行った方がよい やや行わない方がいい 行わない方がよい